

藍川の自然保護を考える

岐阜市立藍川北中学校 3年

小坂美来(こさか みく)

私の家の近くには百々ヶ峰から湧き出た水が静かに流れる小川があります。川幅約1m、水深は10cmほどです。水はゆっくりと流れ貯水池に流れ込みます。そして稲を育てる貴重な水となります。毎年6月上旬には、小川沿いにたくさんの蛍を見ることが出来ます。私は毎年、梅雨の時期が来るのを楽しみにしています。蛍だけではありません。時にはカワセミが水面を飛ぶのを見ることが出来たり、珍しい昆虫を発見したりすることも出来ます。

そのような自然が残っているのはなぜでしょうか。山のふもとで自然が荒らされていないということはもちろんですが、それ以上に地域の方々が自然保護活動をされているからです。例えば強風で倒れた木を除去したり、夏が近づくと除草作業をしたり、生物の住処となるアジサイなどを植えたりといった活動を普段からされているからです。

私はそういった活動を間近で見ているので、自分も自然を大切に、様々な生物が住みやすい環境を作る活動をしたと思うようになりました。

最近、SDGsという単語を見たり聞いたりすることが多くなっています。皆さんはSDGsと聞いて何を思い浮かべますか。私は二酸化炭素を減らそうという活動を思い浮かべます。そして電気自動車に乗っている未来の自分を想像します。このSDGsを訳すと「持続可能な開発目標」となります。もっと簡単に言うと、「世の中で問題になっている様々な課題を解決する取り組み」ということとなります。その内容は17項目にも及びます。これを、大きく分けると開発途上国が抱える貧困や飢餓への支援、そしてエネルギー問題や経済への取り組み、気候変動や自然環境への取り組みの三つです。これらの問題について世界の193か国が2030年までに各目標を達成しようというのです。

私の家の周りのSDGsは、「陸の豊かさを守り、生物多様性を保全する」という項目になります。地球上には現在確認されているだけでも約175万種の生物が生息していると言われていています。しかし、経済成長による大気汚染や森林伐採による生物の住処の消失、温暖化による生態系の破壊などで年間約4万種の生物が絶滅していると言われていています。

このような状況の中で自分に何が出来るのか。環境問題について調べたり、保護活動をしている方の活動内容を読んだり、詳しい人に聞いてみたりしました。その結果、簡単に出来ると思っていた保護活動ですが、かなり大変だということがわかりました。例えば、蛍を例にとれば、餌となるカワニナをたくさん集めればいいというものではありません。水質の異なる生物同士を一緒にすると遺伝子汚染を起こし、逆に死滅させることもあります。また、草木の除去をする時は土地の所有者の了解を得なければなりません。地域の方はそういった対策をした上で活動されています。同じことは出来なくても、今の自分には出来ることがあるはずだと考えました。例えば、生物保護のポスターや注意書きを作成して掲示してもらう事が出来ます。生物の生態についてもっと学習して、生態系を維持するより良い方法を提案することで保護活動に役立ててもらえることも出来ます。

私たちは何か行動を起こそうという時、壮大な計画を立てたり、学校全体・地域全体・さらに日本全体で取り組まないと意味が無いと考えてしまいがちです。しかし、保護活動において最も大事なことは長く続けることだと思います。そして自然保護活動において最も重要な事は、人間が生物を觀賞するために行うのではなく、生物が生き残るために行うのだということです。途中でblankができて失敗してもいいと思います。皆さんも出来る限り身近な活動を始めてみませんか。私はまず地域の人々にもっと自然について聞きたいです。